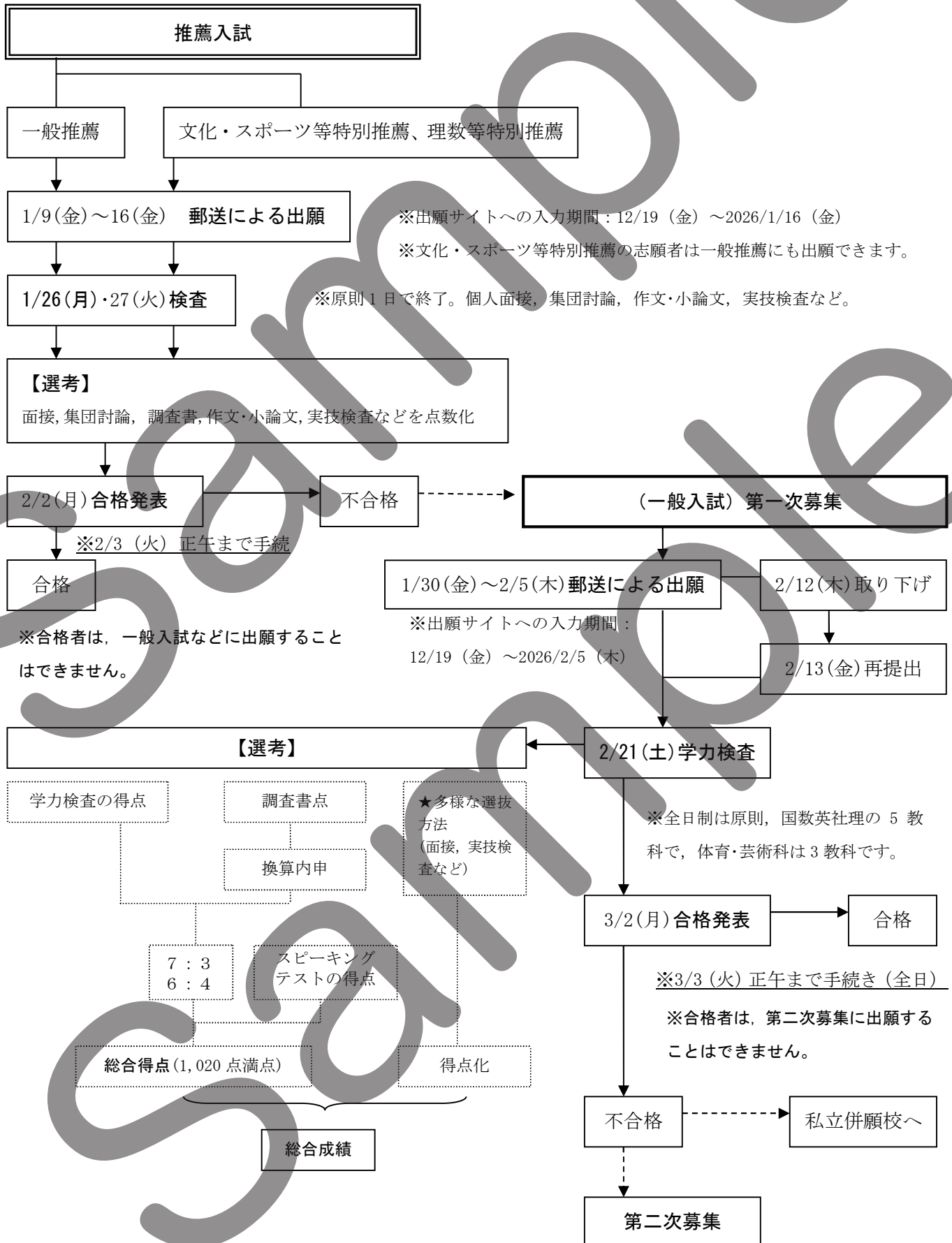


都立高入試の流れ



2026 年度(R 8 年度)都立高入試のしくみ

1. 推薦入試のしくみ

① 募集枠

推薦入試では、普通科、商業科など学科によって、推薦入試の募集数が決まっています。普通科の場合は、全体の 20%以内となっています。

右の例は 1 学年 8 学級規模の高校の例ですが、推薦入試の募集数は男女合わせて 63 人となります。

Point 普通科の募集枠は 2 割と狭く、その狭い枠に多くの志望者が集まるので推薦入試の倍率は高くなります。

なお、文化・スポーツ等特別推薦（★下記参照 以下「特別推薦」といいます）の募集人員はこの推薦募集枠に含まれます。

2025 年度入試では特別推薦の推薦基準に大会の実績や資格・検定試験等の成績を含めませんでした。

※今後、提出を求めない方向性とのことです。

また、2022 年度から立川（創造理数）では理数等特別推薦（以下「特別推薦（理数）」といいます）が導入、2024 年度では科学技術（創造理数）においても導入されました。

② 出願

推薦入試を受検する場合、「特別推薦」「特別推薦（理数）」「一般推薦」いずれも必ず中学校の校長先生の「推薦書」が必要になります。また、その志望校が第 1 志望でなければ受検できません。したがって、合格したら必ず入学しなければならないのです。以上のことを承知した上で受けるかどうか考えてみましょう。そして受けようと思ったら、まず担任の先生に相談しましょう。

願書には、〇〇高校の〇〇学科を第 1 志望として志望すると記入しますが、その同じ高校の中にいくつかの学科がある場合は、第 2 志望の学科を指定することができます。

志望校（第 1 志望）	特別推薦	高 校		1つの種目等を指定して記入する。	
		高 校	コース科(分野)部	志望の種目等	
	一般推薦	高 校	コース科(分野)部	専門学科への志願者で第 2 志望を志望する場合は、その志望を記入することができます。	
		高 校	コース科(分野)部	第 2 志望	科(分野)

★文化・スポーツ等特別推薦は、特定の種目でハイレベルの技能を持った生徒に対して行われる入試で、種目別に募集人数が決まっています。

ただし、工業科の機械科や電気科、電子科や農業科の園芸科、食品科など、同じ学科の中でのみ第 2 志望を指定できるということなので、農業科の学科を第 1 志望として、家庭科の学科を第 2 志望とすることはできません。

2025(令和7)年度 都立高入試の概況

1. 英語スピーキングテスト (ESAT-J YEAR3)

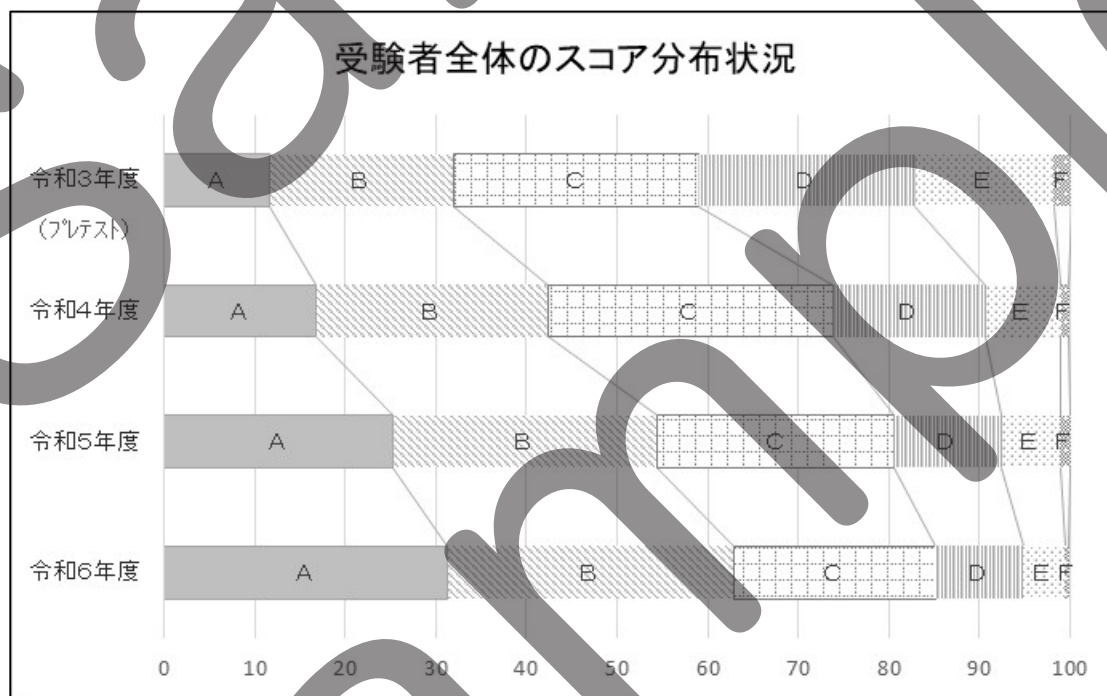
中学校英語スピーキングテストが実施され3年目となりました。

76,355人が申し込み、計70,741人が受験しました。(東京都教育委員会より、11月24日に約70,000人、12月15日(予備日)に約900人と報告されました。)受験率は92.6%で前年度(93.4%)と比べ0.8%さがっています。受験しなかった生徒数は5614人で、前年より約550人多い状況です。

段階別評価C以上が85%以上になりました。平均スコアは68.3で、前年度より3.1点上がりました。Part Bについて、これまでより得点がしやすくなったと思われます。

平均スコアは53.7(令和3年度)⇒60.5(令和4年度)⇒65.2(令和5年度)⇒68.3(令和6年度)という推移で、上がり続けています。3年目ということもあり、全体像が見えていることで受験生が対策を打つことができたものと思われます。また、練習材料(都のホームページ、過去問、模擬テスト等)が増えたことも平均点アップの一因と考えられます。

なお、次のESAT-J YEAR3の実施予定日は令和7年11月23日(日)が本試験、12月14日(日)が予備日と設定されています。



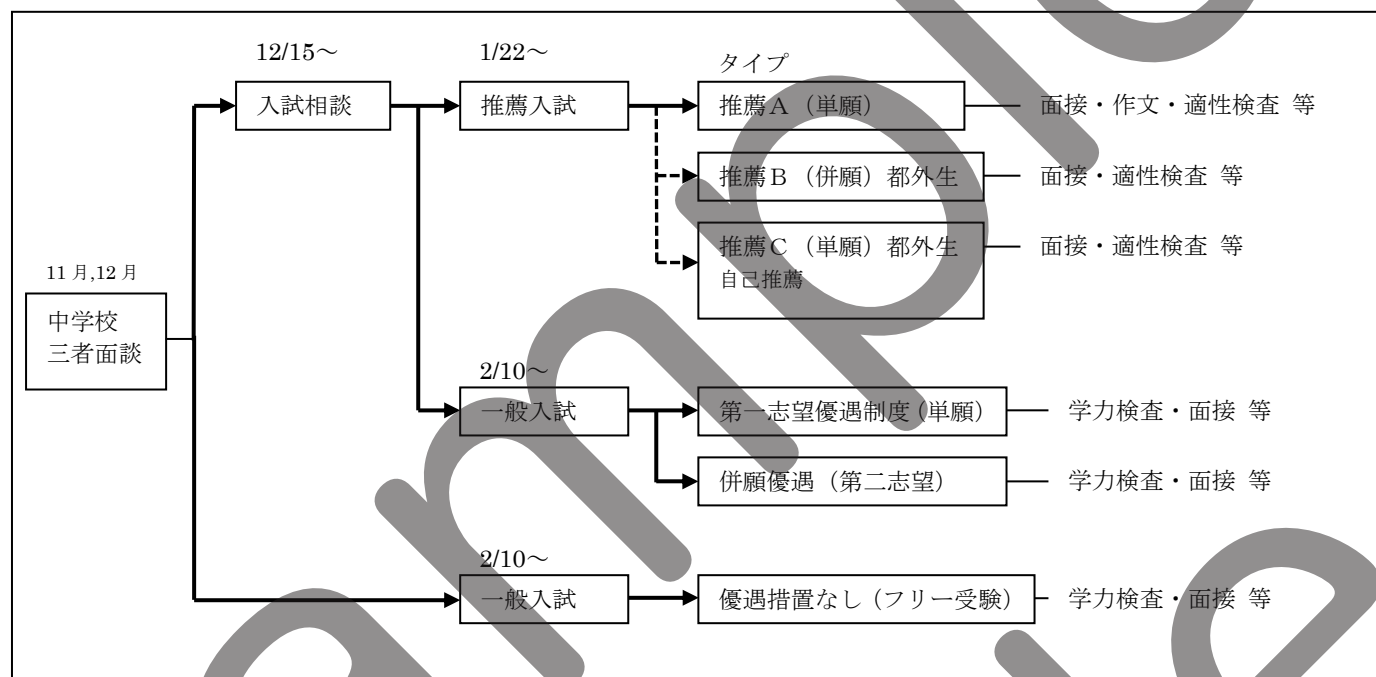
※上記A～Fが「段階別評価 (ESAT-J GRADE)」と言われるもので、以下のように分かります。

スコア 100～80→A / 79～65→B / 64～50→C /
49～35→D / 34～1→E / 0 → F

生徒には、スコアレポートとして、スコアと段階別評価 (ESAT-J GRADE) が記載されたものが通知されるとのことです。なお、都立高入試では、スピーキングテストは20点分として選抜材料として考慮されます。

A→20点/B→16点/C→12点/D→8点/E→4点/F→0点
となります。

私立高入試のしくみ



1. 推薦入試のしくみ

都内の私立高校の入試にも推薦入試と一般入試があります。推薦入試は都内私立高校の約9割で実施しています。推薦入試は上記の図のようにいくつかのタイプがありますが、都内の中学生は「**推薦A (単願)**」しか利用できません。**推薦A**では原則として在籍している**中学校校長先生の推薦**があり、**合格したら必ず入学する**ことを条件に、面接、作文、適性検査などの方法で選抜試験を受けることができる制度です。従って、この**推薦入試を受ける人は他校を受験することはできません**。

「**推薦B**」とは**都内の中学生以外（神奈川県除く都外生）を対象とした入試**で、他校（公立・私立）との併願が可能で、入学手続きを第一志望校の合格発表後まで待ってくれます。都内の中学生はこの制度は利用できないので、他校との併願者は「併願優遇」制度を利用することになります。

「**推薦C**」は自己推薦形式で多くは都外生が対象です。自己推薦なので中学校の推薦書は不要です。

このほか、野球やサッカーなどのスポーツで高い技能を持つ生徒対象に行う「**スポーツ推薦**」を設けている高校もあります。

2. 一般入試のしくみ

一般入試にもいろいろな制度があります。その代表的なものが「**第一志望優遇制度**」と「**併願優遇（第二志望優遇制度）**」です。もちろん、すべての私立高校で実施しているわけではありません。

第一志望優遇制度というのは、推薦基準に達しないが、その私立高校が第一志望である場合、合格したら必ず入学することを条件に学力検査の入試得点に加点（いわゆるゲタをはかせる）制度のことです。内申等の基準があるほか、入試得点で一定の得点がとれないと不合格になる等の条件を設定している高校もあります。

併願優遇（第二志望優遇制度）は、他校が第一志望で、その第一志望校が不合格になった場合は必ず入学することを条件に入試得点に加点して優遇してもらう制度です。第一志望校を公立高校に限定する場合、他の私立高校も